

こころの便り

第244号

令和2年7月

〒679-4343
兵庫県たつの市新宮町大屋六六ハ一十二
株式会社 新宮運送グループ
代表/木南 一志
kiminami@shingu.co.jp
電話079-91-75-1212



新宮運送ホームページ

口にする

緊急事態宣言が解除になり、自粛生活から戻してもいいのか悩ましいところですが、それぞれの判断に任されるようになりました。

テレビやマスコミの不安をおおる行き過ぎた報道には疑問を持ちますが、ネット番組やツイッター、ユーチューブなどを通じて本人から直接得られる方法も随分広がりました。これからは、正しい情報を自分が得た多くの選択肢から判断していくことが求められていきます。

北朝鮮による拉致被害者を救う会で代表を務められていた横田滋さんがめぐみさんに会えなまま旅立たれました。このニュースに触れた時、何とも言えぬ虚しさを感じました。

何もできなかった。自分なりに、多くの方に現実を知っていた。パンフレットを配ったり、ブルーリボンをつけていただくために購入して配ったりもした。しかし、現実目標を達成することなく冷徹にやってきたのです。確かに北朝鮮の独裁者をいくら批判しても、拉致被害者は帰ってきません。米国にお願いして、世界の世論を巻き込んで、いろいろな方法を上げて検討することはできます。しかし、実行しなければ、目標達成を自分のモノにすることはできません。

記者会見で、息子さんの言葉がありました。

「何もやってない方が、政権批判するのは卑怯だと思えます。」

これは、心ないマスコミや批判的な活動家に対

する言葉だと思えます。自分の家族が突然誰かに連れ去られて、黙っている親や兄弟はいません。その心が理解できるのならば、口にするのだと思います。

「拉致問題、いつになったら解決するのかね。」
「あの政治家は拉致のことをどう考えているのだろう。」

国民のほとんどがこうして拉致のことを口に始めたなら、どうなっていくでしょう。捏造された情報に踊らされるようなテレビ番組に「それは違う。」と、せめて拉致問題だけははっきりと口にしてもらいたいと思います。

世の中全体が、自分は何も実行することなく、他人を批評する習慣が広がっています。

その結果、生きていく気力も失い、自ら命を絶つ人も出ています。あおり運転も同じような現象で心が荒んだ結果出てくる行動だと私は判断しています。

お互いが支えあえる社会を作り出すのは決して難しいことではなく、噂話をするように気にかけて話すことで変わってくるのです。

一市民の私にできることはないというのではなく、口にするので確実に変わってくるのです。拉致の話題を広げてまいりましょう。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拝

尋常小學校修身書 卷六 兒童用

第四課 國交

隣近所同志互に親しくして助け合ふことが、共同の幸福を増す上に必要なことは、いふまでもありません。それと同様に、國と國とが親しく交り互に助け合つて行くことは、世界の平和、人類の幸福をはかるのに必要なことです。今日各國互に條約を結び、大使・公使を派遣して交際につとめてゐるのも、主としてこれがためであります。

明治天皇は、諸外國との和親について非常に大御心をお用ひになりました。明治四十一年に天皇の下し賜はつた詔書の中にも、益國交を修めて列國と共に文明の幸福を樂しまうと仰せられてあります。

歐洲大戰の終に平和會議がパリで開かれた時、我が國もこれに参加しました。この會議の結果、出來上つたのが平和條約で、將來世界の平和に大切な國際聯盟規約はこの條約の一部です。この條約の實施された大正九年一月十日に、大正天皇は詔書を下し賜はつて、萬國の公是によつて平和の實を擧げ我が國力を養つて時世の進歩に伴なふやうに勉めよと國民にお諭しになりました。

今上天皇陛下は皇太子であらせられた時、歐洲諸國を御巡歴になりました。半年の間、陛下は到る處の國々で御交際におつとめになり、いつも非常に好い感じをお與へになりました。これがため各國との和親がどれ程増したかはかり知られません。

我等も國交の大切なことを忘れず、つとめて外國の事情を知り、外國人と交際するに當つては、常に彼我の和親を増すやうに心掛けませう。

NPO法人 愛ランド様の協力で障書を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせていたただいております。